

小ギクの高品質・安定出荷

要約

- ・盆需要期に安定出荷するための電照栽培・県育成盆咲き品種の普及推進。
- ・発生予察や SNS を活用した効率的防除による秀品率の向上。

現状(背景)と課題

- ・責任産地として、市場より物日を中心に高品質・安定出荷が求められている。
- ・近年、夏季高温等の異常気象による開花遅延や品質低下が発生。
- ・従来問題になっていた白さび病等の難防除病害虫のほか、近年は黒斑病、オオタバコガ、シロイチモジヨトウによる被害も増加。

目標 (R3⇒R6)

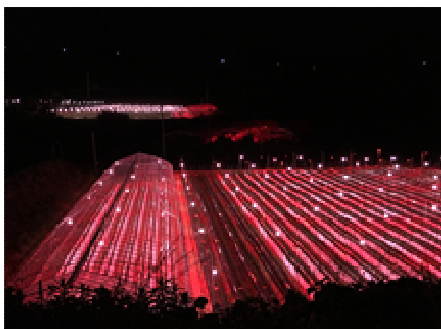
- ・盆電照栽培面積 3.7ha ⇒ 5.5ha
- ・県育成盆咲き品種栽培面積 69a(R4:49a) ⇒ 69a
- ・8月下旬電照栽培適性品種 0品種 ⇒ 2品種
- ・共撰出荷秀品率 82.1%以上
- ・西和花卉部会 SNS 登録者数 0人 ⇒ 60人

活動内容 (対象：西和花卉部会)

- ・盆咲き品種開花予測調査 (16回)。
- ・電照栽培技術指導・花芽調査 (23回)、電照栽培研究会 (3回) の開催。
- ・8月下旬電照栽培技術指導・調査 (20回)。
- ・県育成品種の栽培技術指導 (6回)。
- ・鱗翅目害虫2種の発生予察調査 (各2か所)。
- ・病害虫防除現地指導 (10回)、品質向上対策講習会 (4回) の開催。

成果

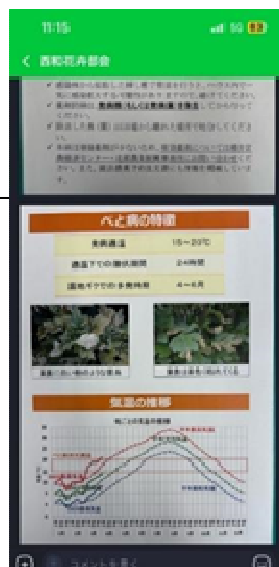
- ・盆電照栽培面積が5.5haに普及拡大。
- ・調査や試験研究に基づいた情報提供により、適期出荷を実現。
- ・8月下旬電照栽培の適性品種を1品種選定。
- ・県育成盆咲き有望系統を1系統選抜。
- ・共撰出荷秀品率は85.7%を達成。
- ・部会SNSの登録者数は、42人に増加。



盆電照栽培圃場の夜景



防除所との共同巡回調査



SNSによる情報提供画面

普及活動のポイント

- 花芽検鏡・開花予測調査の結果をLINEによって電照栽培研究会会員へ即日配信し、効率的に生産者、関係機関と情報共有。加えて、過去の開花遅延の原因分析と高温少雨対策について研修会で情報提供し、適期出荷を実現。
- 8月下旬電照では、過去2年のデータを分析し、電照栽培研究会で品種選択や消灯時期に関する情報提供を行い、収穫盛期の目標（8月第6半旬）達成につなげた。
- フェロモントラップによる発生予察調査を実施し、JA（事務局）と連携したSNS情報発信により効率的防除を推進。

対象の変化

- 盆電照栽培は、継続した普及活動の結果、盆出荷量の半数に迫るまで面積が拡大し、産地に完全に定着している。
- 開花予測調査で遅延傾向の状況や対策（圃場へのかん水）について情報提供すると、各生産者が対策を実施。その結果、産地全体で高需要期の出荷量が確保でき、市場から高い評価を得た。
- 8月下旬電照は、効率的・計画的に出荷する技術として認識されつつあり、盆電照栽培者にとっては取り組みやすいことから、事業を活用して取り組む者が増加。
- 部会SNSの既登録者は、デジタルに抵抗のない層であり、病害虫等の情報もスマホで手軽に確認することができて便利、といった声を聞いている。

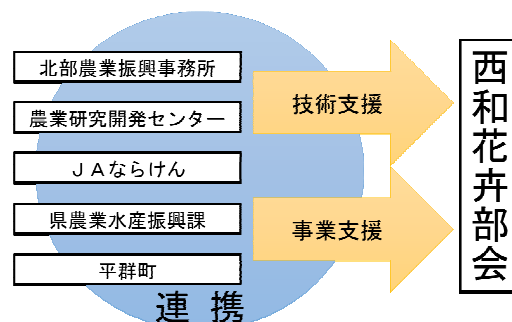
対象者からのコメント

- 盆需要期の安定出荷と病害虫対策における技術課題へのさらなる支援に期待している。

これからの活動ビジョン

- 今後予想される異常気象にも対応できるよう、引き続き電照栽培に関するデータ蓄積を重ねるとともに、新たな適性品種の検索等により、継続的な安定出荷を実現する。
- 8月下旬電照等の普及をさらに進め、計画出荷期間の拡大を図る。
- 部会SNSはJA（事務局）と連携して情報発信内容の充実を図るとともに、効率的な情報提供ツールとしての普及をはかり、産地のIT化の第一歩とする。

活動体制



用語解説

【電照栽培技術】

キクの開花が日の長さに左右される性質を利用し、人工的に照明をつけることで、開花時期を調節する技術。

【発生予察】

病害虫の発生状況を調査し、気象の動向を加味して今後の病害虫の発生消長を予測すること。



難防除病害虫
(オオタバコガ)